デザートバイキング　『ラズベリーパルフェ』

桜沢　純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
デザートバイキング　『ラズベリーパルフェ』

【Ｎコード】
Ｎ１６４７Ｇ

【作者名】
桜沢　純

【あらすじ】
ランはエリカのことが好きだった。だけれど、エリカには彼氏がいる。胸が切なくて……ＧＬ短編集『デザートバイキング』シリーズ

好きな人に恋人ができた。
って言うと、わかりやすく失恋だけれど、アタシの場合ちょっと違う。
「ちょっと待ってよラン。置いて帰るなんてヒドイー！」
「エリカ？　あれ、彼氏は？」
「部活で遅くなるから。大会前だもん」
「待ってなくていいの？」
「いーの。待ってるの退屈なんだもん」
エリカはそう言って笑って、アタシの腕に自分の腕を絡ませてきた。思わず鼓動が高鳴る。
「はーなーせー。重いってば！」
「やだー。ランってばつめたいー」
そう。
アタシが好きなのは、数年の付き合いになる親友のエリカなのだ。

「ほらほら、これこれ、ちょーカワイイ！」
……オマエの方がカワイイって。
クマのヌイグルミを抱きしめるエリカを見ながらアタシは思う。
ああ、ヌイグルミになりたい。
学校帰り。いつもの帰り道にあるキャラクターショップ。二人で帰るときはだいたい立ち寄るけど、アタシは見てるだけ。こういうカワイイのが好きなのはエリカだった。
「はいはいカワイイねーって、もしかして買うの？」
「だってだって、ホラ、一緒に帰りたいって言ってるよー？」
ぎゅーっとクマを抱きしめながら、エリカがアタシに擦り寄ってくる。アタシよりだいぶ背の低いエリカの柔らかい髪の毛が、アタ

シの首筋に触れてくすぐったい。ホラ。それだけのことでドキドキしちゃう。
「よし決定。お前の名前はー……クマ太ね♪」
「少しはちゃんと考えてあげなよ」
アタシがそう言うと、エリカはあははっと笑う。
その笑顔にクラクラする。

「なんかさー、ヌイグルミの増え方が尋常じゃないんだけど」
「へ？　そーぉ？」
エリカの部屋。ベッドを囲んでいたヌイグルミ達は、今やテレビや本棚までその勢力を拡大していた。ちなみに、前回部屋に来たのは一週間前だ。
「気のせい気のせい。きっと繁殖したんだよ」
「それじゃ気のせいじゃないでしょっ！？」
そんなバカなことを言い合いながら、楽しい時間をすごす。
エリカに彼氏ができる前は毎日のように過ごしてたこの時間が、いまでは貴重な時間になってしまった。そんなことを考えたら何だか切なくなって、胸の奥がチリチリした。
「ランは、好きな人とかいないの？」
切なくなってる時に、その質問は反則だ。アタシは不意打ちで泣きそうになって、ぐっと眉間に力を入れた。
「……別に。いないよ」
エリカが好きなんだよ。
なんて、言えるわけない。
エリカには彼氏がいて、アタシの事は友達としてしか見てないんだから。言って失うくらいなら、言わずに我慢して、今のままでいたいもの。辛いのは……わかってるけれど。
「あのさ……実は、彼氏とケンカしちゃって」
「……え？」

「あたしのカワイイ物趣味が恥ずかしいんだって。だから、ホラ、ケータイのヌイグルミ外したでしょ？」
そういえば、少し前からエリカのケータイとかバッグから、ヌイグルミとかが減っていた。
「それで、何か、部屋のヌイグルミが増えちゃったんだ」
「そういうこと……か」
苦笑するエリカに、アタシは小さくうなずいた。
エリカが彼氏のこと好きなのは、アタシが一番知ってる。彼氏のためにちょっとでも可愛くなろうと、色んな雑誌とか見て研究してたり、スタイルをよくする運動とかもしてる。だけど……
「エリカが彼氏のこと好きなのはわかるけど……だからって、それでエリカが無理するのは違うよ」
「ラン……」
イチゴの形のテーブルに並んで座って、アタシはエリカの手をとりながら言う。
「だって……エリカが無理してんの、アタシは嫌だよ。女の子なんだから、カワイイの好きでいいじゃん！　好きなんだからしょうがないじゃん！」
「……ラン？」
心配そうなエリカの声。
ああ。アタシ泣いてる。
だって、好きなんだからしょうがないんだよ。
「彼氏にちゃんと話しなよ。もし、彼氏が嫌だっていったら……そん時は、アタシがエリカを奪うから！」
「……ラン」
ぎゅっと。エリカがアタシの腕にしがみついてきた。
「ありがと。ラン」
エリカのぬくもりを感じながら、アタシの胸は切なくて切なくて、壊れそうだった。

それからしばらくして。
「んじゃ、ラン。またあしたねー」
「ん。じゃね」
エリカが、バッグにつけた小さいクマのヌイグルミ、クマ子を揺らしながら教室を出て行く。
「……アタシも、ヌイグルミでも買おうかな」
アタシも女の子だしね。
向かうは、いつものキャラクターショップ。そういえば、一人で入るのは初めてだ。
……エリカと同じくらいカワイイのがあればいいな。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1647g/

デザートバイキング　『ラズベリーパルフェ』

2010年11月16日03時23分発行